

# 精神障害者地域支援部会実施報告について

## 1 概要

精神障害者地域支援部会は、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」(以後「にも包括」という)の構築を目指し、平成30年度に設置した専門部会である。これまで、7回部会を開催している。

昨年度の広島市障害者自立支援協議会で報告して以降に開催した、「令和3年度第2回部会」「令和4年度第1回部会」の協議内容と、「にも包括」構築のための取組状況について報告する。

## 2 令和3年度第2回部会開催概要

(1) 日 時 令和4年2月15日(火) 18時30分～20時00分

(2) 場 所 オンライン開催

(3) 出席部会員 11名中10名出席

(4) 事務局 精神保健福祉課、精神保健福祉センター

### (5) 主な協議事項

協議1 令和3年度第1回精神障害者地域支援部会の協議内容について

- ・前回の部会の協議事項や意見をまとめ、事務局としての対応案を説明。

協議2 各区話し合いの場の設置状況について

- ・令和2年度から各区に「話し合いの場」を設置し、区ごとに「にも包括」構築の協議を行う形としたため、設置状況等を説明。

協議3 「にも包括」構築のための取組目標について

- ・広島市が目指す「にも包括」の方針と、令和4年度の取組案について説明。地域移行・定着にかかる事項、区「話し合いの場」との連携等、「にも包括」と「正しい知識」の普及啓発を取組目標とし、入院患者等へのアンケート調査や支援者への研修会の開催等を提案。

### (6) 部会における主な意見等

#### 【部会員】

- ・全ての区の「話し合いの場」の構成員に、精神保健福祉家族会が参加できるようにしていただきたい。
- ・今後、地域移行・地域定着を行っていくために、令和4年度の取組目標として「入院患者へのアンケート」を行うことが挙げられているが、当事者だけでなく家族に対してもアンケートを行っていただきたい。
- ・救急病院や療養型の病院など、病院の機能によっても、出来ること、出来ないことが異なる。アンケートを実施する際は、そのあたりの考慮も必要である。
- ・アンケートに協力できる病院のみを対象にアンケートを行えば、広島市の実態よりも良い結果が出る。良い結果を基準として取組を進めていけば、様々な問題から取組困難な病院が取り残され、現状と変わらないままなのではないか。
- ・協力してくれる病院のみにアンケートを行うのではなく、協力が難しい病院へも協力をお願いできる体制を構築することが、そもそもこの事業の目的なのではないか。
- ・「にも包括」構築に向けて、地域移行を目標とし、アンケートを行うとのことだが、その前に、医療側と地域側が率直に話し合うような協議の場が必要なのではないか。「地域移行」という意味が医療側と地域側で共通言語となっていないように感じる。
- ・以前から「顔の見える関係性があってこそ・・・」という話をしてきた。関係構築の前にアンケートをやっても、「地域移行は難しい」等で終わってしまうのではないか。資料には、「医療・保健・福祉関係者の顔の見える関係づくりのための研修会の開催」も案として示されている。先ず研修会から行ってみたい。
- ・一方的な研修会ではなく、「話し合いの場」的なものを開催してほしい。関係機関同士で事例を積み重ねていくことこそが、関係づくりになる。各区に「話し合いの場」を設置されているのだから、有効に活用して支援者同士をつなぎ、アンケート内容などの精査も行っていったらいいか。

#### 【今後の方針】

- ・アンケートの実施については、令和4年度実施目標とせず、医療・保健・福祉関係者を繋ぐ研修会等の開催を令和4年度の実施目標とする。
- ・「にも包括」構築を進めていくために、コアメンバー会議を設置し、具体的な取組の進め方等の協議を行う。

## 3 令和4年度第1回部会開催概要

(1) 日 時 令和4年8月29日(月) 19時00分～20時30分

(2) 場 所 中区地域福祉センター5階 大会議室

(3) 出席部会員 11名中10名出席

(4) 事務局 精神保健福祉課、精神保健福祉センター

(5) 主な協議事項

協議1 部会長の選出について（令和4年2月末に部会員改選が行われ、改選後初めての部会であるため）

協議2 令和4年度「にも包括」構築に向けた取組

- ・前回の部会意見を踏まえ、新たに「コアメンバー」を設置し協議を重ねていること、令和4年度の取組として、「医療・保健・福祉の支援者を対象とした会議（研修会）を行うこと」「各区「話し合いの場」の取組状況の共有と課題を把握するための取組シートの作成・活用を考えていること」を説明。

協議3 今後の広島市「にも包括」構築に向けた取組

- ・令和4年度から国の事業に参加し、「にも包括」構築支援事業広域アドバイザーから、「にも包括」構築に向けた、様々な取組についてのアドバイスを受けていることを報告。

(6) 部会における主な意見等

【部会員】

- ・広島市の「にも包括」の方針の中に、「地域移行・地域定着に係る事項」とある。病院では、「措置入院患者の退院後支援」を行っているが、この支援を行うことによる効果はどうか。効果を示すことができれば、医療機関へ発信することができるのではないかと。
- ・各区「話し合いの場」について、一定の方針を示されている。構成員の案として、様々な事業所が示されているが、構築を進めていくに当たっては、ある程度の整理は必要ではないかと。
- ・今年度作成予定とされている「取組シート」だが、このままでは活用が難しい。各区の協議事項や課題が明確化できるように、内容について再度検討することが必要である。
- ・「にも包括」構築に係る事業について、各区の医師会へも協力を要請し、「精神科だけの事業ではなく、医師会としても認知している事業」としていただければ、各区で進めて行く際に、横の連携もとりやすいと思う。
- ・3障害の中では、精神障害は難しいと思われ、支援が避けられがちという印象がある。そのため、精神に特化し、しっかりと地域で支えていく仕組みを作っていくことは大事なこと。さらに、精神のことを理解し、関わることのできる事業所を増やしていくことは、市の課題であると考えている。
- ・広域アドバイザーの意見の中で、「ピアサポーターが協議の場に参加できるように考えていくこと」「ICTの活用」が今後の取組案に挙げられていたが、広島市のピアサポーターの実情や今後の養成・活用についてどのように考えているのか。コロナ禍となり、対面での支援が困難となっているが、それが事業が進まない理由とならないように、ICTの活用も含め仕組みを整えていく必要があると思う。

（事務局）

- ・ピアサポーターは令和2年度から養成を始めており、現在は5名が活動を行っている。現在コロナ禍で、ピアサポーター養成時に予定していた活動ができず、活動の場が狭まっている。今後、広域アドバイザーの意見も参考にしながら、活用の場を広げていきたい。

【今後の方針】

- ・部会員の意見を踏まえ、今年度の取組を行う。

## 4 今年度の取組

(1) 「にも包括」構築に向けた連携会議の開催

「にも包括」についての講演と、顔の見える関係づくりを目的としたグループワークの2本立てで連携会議を開催。54名の参加者があった。

(2) 「にも包括」構築に向けた「取組シート」の作成・活用

各区「話し合いの場」の取組内容の共有、課題の明確化を目指した「取組シート」を作成中であり、今年度中の作成、次年度からの活用を目指している。

## 5 今後の検討の進め方

「にも包括」構築のためには、「地域基盤の整備」「医療・保健・福祉の重層的な連携」が必要で、顔の見える関係から成る連携強化を行っていくことが必須である。それを踏まえ、「精神障害者が受け入れられやすく、必要なときに適切に相談・支援と精神科医療に繋がる地域」を目指すという方針を定め、取組目標をまとめた。今後は、目標に沿って、具体的な取組を行い、評価を重ねながら、「にも包括」構築に向けた体制を整えていく。